

単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領生活科の内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びに使うものを工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を受けて設定した単元である。

本単元では、児童に、これまでの経験から遊び方を想像しながら、身近にある物を利用して遊びを工夫して創り出す楽しさや面白さに気付かせることをねらいとする。

身近な自然としては、夏という季節に最もふさわしい水を取り上げる。水を使った遊びに限定することで、児童が追求する要素が絞られ、気付きの共有化が図りやすいと考える。また、思いや願いを実現しようと試行錯誤する経験は、2学期の単元「たのしいあきいっぱいつくろうあそぼう」で、おもちゃづくりに取り組む際に生かされると考える。

○ 児童観

入学して3か月が経ち、初めは緊張ぎみであった本学級の児童だが、学校探検等の活動を通して学校にも慣れ、安心して自分らしさを表出するようになってきた。自分の周りの友達への関心も増し、大休憩や昼休憩には全員が外へ出て仲よく遊んでいる。幼稚園や保育園で、季節の自然素材や身近なものを使って遊ぶ経験をしている児童は22人と多い。反面、映像やゲーム等の仮想体験が増えており、自然に直接触れ、自ら遊びや遊び方を工夫して友達と一緒に楽しむ経験は減少傾向にあると考える。表現活動については、個人差はあるものの、みんなの前で話すことに少しずつ慣れてきた。時期的に文字での表現は、これからの段階である。また、自分の想いを絵や文章に表現するのが難しい児童もいる。

○ 指導観

課題の設定では、暑い季節を気持ちよく過ごすために、水や水で遊ぶことへ興味をもたせ、水を使ってやってみたい遊びについて意見を出し合い、教師が水飛ばしを自演して見せることで自分もやってみたいという意欲を喚起する。

情報の収集では、身近な道具（ビニル袋、マヨネーズチューブ、ペットボトル等）を利用して、水飛ばしをメインに自由に遊ばせて、ふだんは何気なく触れている水にじっくり関わらせたい。また、体験的な活動を増やし、楽しさを味わわせることで、友人に伝えたいという思いをもたせ、名人カードを書く活動への意欲を高めたい。初めは指示を出さず、児童の活動を見守り、時には一緒に遊びに加わりながら、児童の会話や活動の様子、つぶやきを見取っていく。そして、「もっとやりたい」「もっと楽しくしたい」「工夫したい」という思いを引き出し、次時の活動につなげる。

整理・分析では、個人で、もっと楽しく遊ぶための道具と遊び方について考える。そのために、まず、3人組で「使った道具」「遊び方」「どう思ったか」の視点で交流し、自分の遊び方と比べながら

聞かせることで、新たな気付きをもたせたい。次に、全体で交流をして、工夫について整理する。そして、前時までの自分の遊びと友達の考えを比べながら、より楽しく遊ぶための道具と遊び方について考える。

まとめ・創造・表現では、実際に創造した遊びで遊び、楽しかったことや工夫したことを「みずあそびめいじんカード」に記入する。

振り返りでは、「みずあそびめいじんカード」をもとに、「楽しめたか」「工夫ができたかどうか」の視点で振り返りをする。さらに、シャボン玉や色水づくりなどの水を使った遊びを紹介し、夏休みにおうちでやってみたいという新たな思いや願いをもたせたい。

単元の目標及び内容について

- 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びを創り出すことの面白さに気付く。 【知識及び技能】
- これまでの経験から、自分のおもちゃの動きや遊び方を創造し、様々な遊びを楽しむことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 夏の自然と関わりたいという思いをもち、様々な遊びを繰り返し、夏の自然を楽しもうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びを創り出すことの面白さに気付いている。	これまでの経験から、自分のおもちゃの動きや遊び方を創造し、様々な遊びを楽しんでいる。	夏の自然と関わりたいという思いをもち、様々な遊びを繰り返し、夏の自然を楽しもうとしている。

単元で育成したい資質・能力

	A	B
【知識・技能】	・身近な自然を利用したり、身近にある様々な物を使ったりして、遊びを創り出すことの面白さに気付いている。	・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びを創り出すことの面白さに気付いている。
【思考力】 【表現力】	・これまでの経験や友達の活動を見て、自分のおもちゃの動きや遊び方を創造し、様々な遊びを楽しんでいる。	・これまでの経験から、自分のおもちゃの動きや遊び方を創造し、様々な遊びを楽しんでいる。
【主体性】 【自己理解】	・夏の自然と関わりたいという思いをもち、様々な遊びを繰り返し、夏の自然をさまざまな人と楽しもうとしている。	・夏の自然と関わりたいという思いをもち、様々な遊びを繰り返し、夏の自然を楽しもうとしている。

指導と評価の計画

全4時間

次	時	学習内容	評 価			育成したい 資質・能力		
			知	思	態		評価規準	評価方法
		図画工作 「すなや つちと なかよし」 ・図画工作科の時間に、水を身近に感じられるように、水を使って砂遊びを行う。						
一	1	課題の設定 (0.5) ○水を使って遊びたいという意欲をもつ。 ・夏にしたことのある遊びについて出し合い、水を使って遊びたいという意欲をもつ。 ・どんな水を使った遊びをしたいか想像し、必要な物や何をするかについて話をする。			○	・水や身近にあるものに関心をもち、水を使った遊びについて話をしようとしている。	行動観察	主体性
		情報の収集 (0.5) ○身近にあるものを使って、遊びを創り出す。 ・ペットボトルやマヨネーズの容器などを用いて、グループで水を使った遊び創りを行う。	○			・身近にあるものを用いて、水を使った遊びを創り出している。	行動観察	知識及び技能
	2	整理・分析 (1) ○もっと楽しく遊ぶための工夫について考える。 ・ペアで、自分のした水遊びについて振り返り、意見を出し合ったり、友達の遊びと比べたりして、より楽しく遊ぶための工夫を考える。 【本時】		○		・ペアで、自分のした水遊びについて振り返り、意見を出し合ったり、友達の遊びと比べたりして、楽しく遊ぶための工夫を考えている。	行動観察 ワークシート	思考力
二	3	まとめ・創造・表現 (1.5) ○作ったもので遊ぶ。 ○「みずあそびめいじんカード」を作り、発表をする。 ・水を使った遊びを通して、楽しかったことや工夫したことについて「みずあそびめいじんカード」にまとめる。 ・まとめたことを、みんなの前で発表をし、伝える。		○		・自分の作った遊びについて、楽しかったことや工夫したことをカードに表現している。		表現力
		生活科 「たのしかった ことを つたえよう」 ・夏の自然と自分との関わりを振り返り、気付いたことや楽しかったことを友達と交流する。						
	4	振り返り (0.5) 学びのモニタリング ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点で自らの学びを振り返る。		○		・水を使った遊びや、遊び方について振り返り、これからの生活で生かそうとしている。	行動観察 ワークシート	自己理解

本時の学習

(1) 本時の目標

- もっと楽しく遊ぶためにはどうすればいいか考え、遊び方や道具をよりよく工夫することができる。

(2) 本時の評価規準

- ペアで、自分のした水遊びについて振り返り、意見を出し合ったり、友達遊びと比べたりして、楽しく遊ぶための工夫を考えている。 **【思考・判断・表現】**

(3) 本時の学習展開（2時間目／全4時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
1 前時の道具と遊び方をペアで振り返る。 ○前回、どんな材料を使って、どんな遊びをしましたか。ペアで話してみましょう。 ・ペットボトルに水を入れて鉄砲を作った。 ・ペットボトルとマヨネーズチューブで水鉄砲をしたけど、マヨネーズチューブの方がよく飛んだよ。 2 前時の道具と遊び方を全体で交流する。 3 本時の学習課題を確認する。 めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> もっとたのしくあそぶためにはどうすればいいかかんがえよう </div>	◇前時の写真や動画を見せ、想起させる。 ◇「つかったどうぐ」と「あそびかた(どのようにつかったか)」「どう思ったか(難しかったことなど)」の視点で交流させるように指示する。 ◇友達の工夫できそうな点があれば、アドバイスしてもよいことを伝える。 ◇意図的指名により、児童の考えを深められるようにする。 ◇友達の遊んだことがイメージできるように実際の道具を用いて話すように指示する。	
<div style="background-color: black; color: white; padding: 2px; display: inline-block;"> 本時のゴールの見通し </div> ペアで、意見を出し合ったり、友達遊びと比べたりして、より楽しく遊ぶための工夫を考えている。		
4 道具と遊び方を一人で考える。 ○もっと楽しく遊ぶための道具と遊び方を考えましょう。 ・的を作ってあてをしたらもっと楽しくなると思う。そのためには的が必要。 ・誰が一番遠くに飛ばせるか「水飛ばし競争」をしたらもっと楽しくなると思う。そのために、いろいろな容器が必要。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> □思考の場の工夫 比較する 前時の遊びと友達の意見を比較するなどの視点をもって、より楽しく遊ぶための工夫を考える。 </div>	◇「やりたいあそび」と「ひつようなもの」に分けて考えられるように、視点を示す。 ◇使いたい材料を、手に取れるように、「前時まで使っていたもの」と、「新しく使えそうなもの」を提示する。 ◇イメージしやすいように写真を掲示する。 ◆なかなか見付けられない児童には、一緒に対話をしてやりたいことを引き出すようにする。	◎ペアで、自分のした水遊びについて振り返り、意見を出し合ったり、友達遊びと比べたりして、楽しく遊ぶための工夫を考えている。 【思考・判断・表現】 (行動観察・ワークシート)

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
5 道具と遊び方をペアで交流する。 ○新しく考えたことをペアで伝え合いましょう。 6 道具と遊び方を発表する。 ○考えたことを発表しましょう。	◇前時とどう変わったかを伝えることを指示する。	
★めざす児童の姿 ・まえは、ただとぼしてあそんでいたけど、まをつくってまとあてをしようとおもいます。		
7 次時の見通しをもつ。		

(4) 板書計画

めざせ！ みずあそびめいじん

めあて
 もっとたのしくあそぶためにはどうすればいいかかんがえよう。

前時の写真

前時の写真

前時の写真

つかいかた

- ・おしてとぼした
- ・たかさくらべ
- ・えをかいた

どうぐ

- ・ぺっとぼとる
- ・まよねえずちゅうぶ

あたらしいざいりょう

画用紙

やりたいこと

- ・まとあて

写真

→

いるもの

- ・ぺっとぼとる
- ・まよねえずちゅうぶ
- ・がようし

・みずとぼしきょうそう →

写真

- ・ぺっとぼとる

・みずでおえかき →

- ・ぺっとぼとる
- ・ちゅうぶ

まとめ

まえは、ただとぼしてあそんでいたけど、まをつくってまとあてをしようとおもいます。

<参考> 「学びのモニタリング」

海田東小 学びのモニタリング

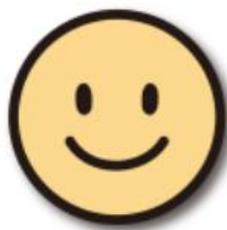
めざせ！ みずあそびめいじん
「みずで あそぼう」

1ねん くみ ばん（ ）

- ① みずあそびめいじんになるために、すすんであそびかたをかんがえた。



- ② みずをつかったあそびどうぐをつくることができた。



- ③ べんきょうして、みつけたことやおもしろかったことをかきましょう。
